

市川市東山魁夷記念館　開館15周年記念通常展「風景画家　東山魁夷の軌跡Ⅰ　東京美術学校時代から戦前のあゆみ」　2F 出品目録

2020(令和2)年5月30日(土) ～7月26日(日)

木版画
リトグラフ
セリグラフ
た孔版画。
ピエゾグラフ
複製画

木材を版に用いた凸版画。
石版画。近年ではアルミ等の金属の版が用いられる。油と水の反発を利用した平版画。
絹を版に用いたためシルクスクリーンとも言う。インクの通過する穴と通過しない部分を作った版を用いた孔版画。
筆のタッチや画材の質感をデジタルプリントでリアルに表現するセイコーエプソン㈱のデジタル印刷技法。特殊印刷による複製。

＊都合により展示作品が変更となる場合もありますので、ご了承ください。

No.	作品名	制作年	技法・材質、形状	画寸(cm)	備考
1	高原秋色(小下図)　こうげんしゅうしょく(こしたず)	1936(昭和11)	紙本彩色、額装	23.8×35.4	文展監査展出品作品小下図
2	虹(小下図)　にじ(こしたず)	1937(昭和12)	紙本彩色、額装	18.7×24.3	第1回新文展出品作品小下図
3	秋風行画卷(大下図)　しゅうふうこうがかん(おおしたず)	1952(昭和27)	コンテ・紙、卷子装	37.0×802.0	《秋風行画卷》(1952年　東京国立近代美術館蔵)のための準備作
4	秋風行画卷　しゅうふうこうがかん	1977(昭和52)	複製画・紙、卷子装	38.0×854.0	原画:秋風行画卷　1952年　東京国立近代美術館蔵　(37.0×802.0cm)
5	書「自然は心の鏡」　しょ「しぜんはこころのかがみ」		紙本墨書、額装	67.0×34.2	
6	残雪の山　ざんせつのやま	昭和20年代	紙本彩色、額装	24.5×28.5	
7	水辺　みずべ	1943(昭和18)頃	絹本彩色、額装	26.6×23.6	
8	夕汀　せきてい	1942(昭和17)	絹本彩色、額装	48.7×56.6	
9	静日　せいじつ	1950(昭和25)	絹本彩色、軸装	35.4×51.0	
10	道(試作)　みち(しさく)	1950(昭和25)	絹本彩色、額装	57.2×42.0	
11	残照　ざんしょう	1977(昭和52)	複製画・紙、額装	36.3×51.0	原画:残照　1947年　東京国立近代美術館蔵　(151.5×212.0cm)
12	郷愁　きょうしゅう	1999(平成11)	複製画・紙、額装	39.0×57.0	原画:郷愁　1948年　(110.2×179.0cm)
13	花売り　はなうり	1942(昭和17)	紙本彩色、額装	175.5×148.0	
14	緑溪　りょっけい	1999(平成11)	リトグラフ・紙、額装	46.0×57.5	原画:緑溪　1952年　香川県立東山魁夷せとうち美術館蔵　(53.3×66.3cm)
15	たにま	1999(平成11)	木版画・紙、額装	47.8×37.8	原画:たにま　1953年　東京国立近代美術館蔵　(134.0×107.4cm)
16	晩照　ばんしょう	1977(昭和52)	複製画・紙、額装	51.0×36.6	原画:晩照　1954年　東京国立近代美術館蔵　(150.7×108.4cm)
17	樹根　じゅこん	1977(昭和52)	複製画・紙、額装	51.0×38.0	原画:樹根　1955年　目黒区美術館蔵　(118.0×91.0cm)
18	光昏　こうこん	1977(昭和52)	複製画・紙、額装	50.8×37.7	原画:光昏　1955年　日本藝術院蔵　(181.7×136.4cm)
19	夕照(習作)　せきしょう(しゅうさく)	1956(昭和31)	紙本彩色、額装	36.8×45.8	
20	爽明(小下図)　そうめい(こしたず)	1972(昭和47)	紙本彩色、額装	13.8×28.0	帝国劇場緞帳原画のための準備作
21	緑の詩　みどりのうた	1998(平成10)	リトグラフ・紙、額装	33.0×65.0	原画:緑の詩　1983年　(50.0×100.0cm)　帝国劇場緞帳原画

※E.A.　エプルーブアルティスト(epreuvéd’artiste・仏語)の略。作者保存用の意。　※H.C.　オル・コメルス(hors commerce・仏語)の略。非売品の意。

市川市東山魁夷記念館 開館15周年記念通常展「風景画家 東山魁夷の軌跡Ⅰ 東京美術学校時代から戦前のあゆみ」 1F 出品目録

1926(大正15)年、東京美術学校日本画科に入学した東山魁夷は、初めての夏休みに友人らと木曽川沿いに八日間の写生旅行に赴いています。この経験は、その後の画業にも深く結びつくものとなり、1929(昭和4)年には、第10回帝展の初入選も叶えて画壇への一步を踏み出しました。過酷な戦争体験を経た戦後は、日展出品作《残照》の発表によってう転機をむかえ、代表作《道》に象徴されるように、風景画家として堅実なあゆみを続けてゆきます。その後の躍進は目覚ましく、国民的日本画家として充実した画業を展開しました。

開館15周年を記念しての通常展第一期は、生涯をとおして遍歴の旅をつづけた風景画家 東山魁夷の軌跡を辿ります。

2020(令和2)年5月30日(土) ～7月26日(日)



年	備 考	年	備 考
『東山魁夷画文集 別巻 自伝抄 旅の環』	1980(昭和55) 新潮社	両親にあてた手紙(昭和3年4月16日付)	1928(昭和3)
両親にあてた葉書(昭和2年1月8日消印)	1927(昭和2)	両親にあてた葉書(昭和4年4月11日付)	1929(昭和4)
両親にあてた葉書(昭和2年2月23日消印)	1927(昭和2)	教練皆勤證＜複製＞	1929(昭和4) 東京美術学校
両親にあてた手紙(昭和2年2月26日付)	1927(昭和2)	教員免許状＜複製＞	1931(昭和6) 文部省
『風景との対話』	1967(昭和42) 新潮社	母親にあてた手紙(昭和4年5月16日付)	1931(昭和6)
『現代作家デッサン』	1956(昭和31) 芸艸堂	父親にあてた手紙(昭和4年5月頃)	1929(昭和4)
『東山魁夷』	1958(昭和33) 三彩社	母親にあてた手紙(昭和4年7月8日付)	1929(昭和4)
『白夜の旅』	1963(昭和38) 新潮社	川端奨学資金賞＜複製＞	1931(昭和6) 東京美術学校
『東山魁夷 北欧風景画展』	1963(昭和38)	《青春回顧画卷》	2012(平成24) 原画:1938年
北欧風景画展 展覧会場にて(写真)	1963(昭和38)	『僕の留学時代』	1998(平成10) 日本経済新聞社
携帯用折りたたみ椅子		師・結城素明にあてた手紙(昭和10年6月20日付)	1935(昭和10)
眼鏡、ハンチング		アルバム「結城素明遺作展」	1958(昭和33)
携帯用絵具箱		『特別展 結城素明ーその人と芸術ー』	1985(昭和60) 山種美術館
木曽天幕旅行の日記(大正15年7月)＜複写＞		アルバム「結城素明展」	1985(昭和60)
木曽天幕旅行の手紙(大正15年7月26日消印)＜複写＞			
『東山魁夷画文集 信州讃歌』	1995(平成7) 求龍堂	東山魁夷使用の岩絵具	
『わが遍歴の山河』	1957(昭和32) 新潮社	孔雀石、藍銅鉱、岩絵具(群青)	
両親にあてた手紙(昭和4年2月22日付)	1929(昭和4)	膠、「絵具の溶き方」	
山の手帖(スケッチブック)	1937(昭和12)頃	胡粉、イタボガキ、ホタテ	
特待生選定證＜複製＞	1927(昭和2) 東京美術学校	「下図について」	

＊都合により展示資料が変更となる場合もありますので、ご了承ください。